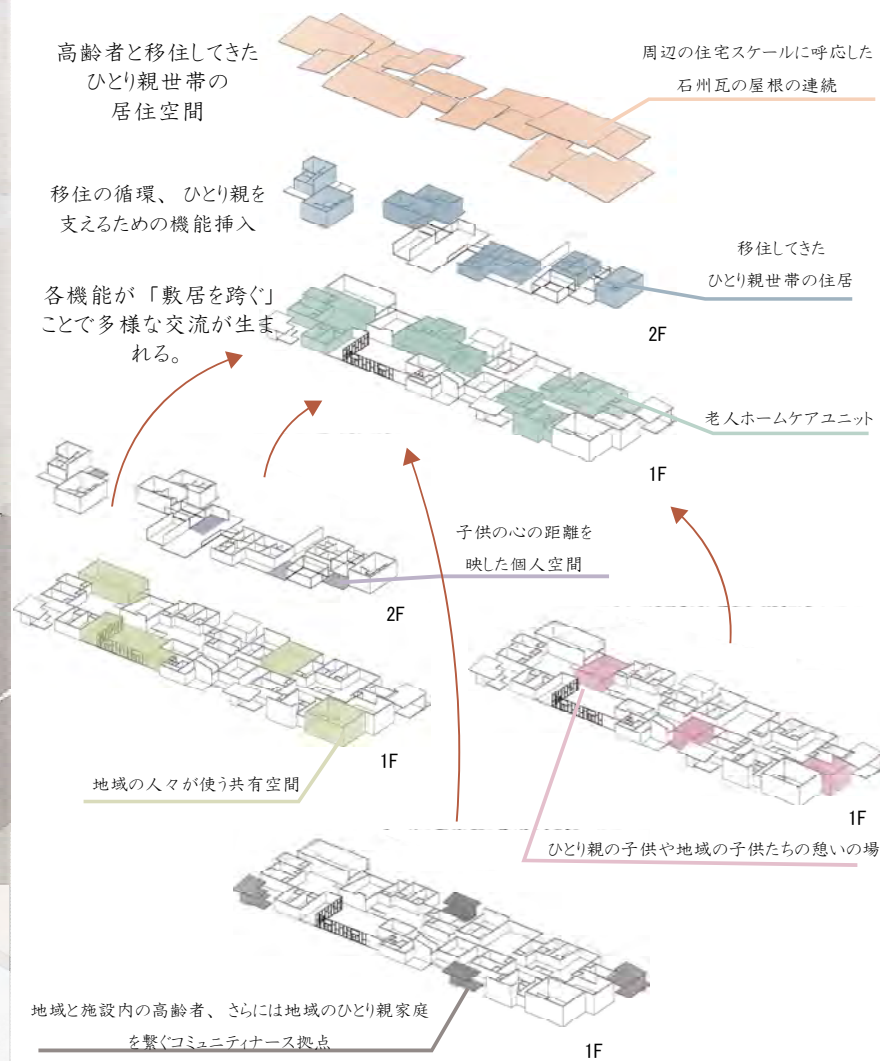




敷居跨ギ

都会から移住してきたひとり親世帯。子供を育てながら働き、様々な負担がひとり親に申し掛かってくる。移住してから歳を取るまでどのような生き方ができ、どのようにまちに溶け込んでいくことができるのか。ひとり親が不安を拭い子供と、地域住民と共に笑顔で過ごしていくための働き方の提案。

04 ダイアグラム



2階ベランダから日本海を望む。老人ホーム内の洗濯物干し空間となる。



ひとり親家庭の個人空間がケアユニットと視線で間接的に繋がる。親の働く様子が垣間見える。

01-a 敷地 - 島根県浜田市元浜町 -

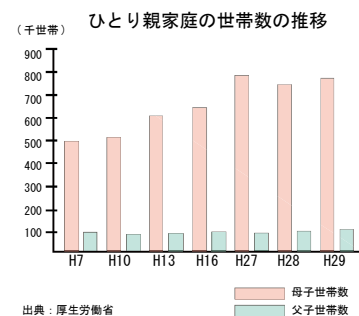
山陰地方の西部に位置する島根県浜田市は南部に中国山地、北部には日本海が面しており、浜田港は山陰有数の漁港として知られている。海山がもたらす美味しい食材、石見神楽などの伝統芸能が特徴として挙げられる。



浜田港に面した計画敷地。現在は廃ビルと駐車場に整備されている。

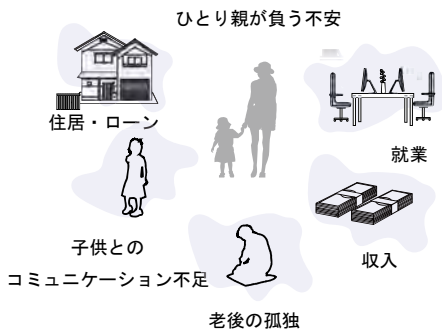
01-b 社会背景 - ひとり親家庭の増加と浜田市の移住支援 -

全国で両親の離婚、親の死去、未婚等によるひとり親世帯が近年増加傾向にある。浜田市ではひとり親の移住支援を推進しており、都心部からの移住者に対し、住まいや支援金の提供などが行われるもので、これまでに浜田市全体で 19 世帯 44 人が移住しその後 11 世帯 27 人が定住している。島根県ではさらに島根県ではコミュニティナースの派遣が進み、地域看護の拠点として活躍している。暮らしの身近な存在として地域の人のやりたいことを引き出し、まちの可能性を広げる。



02 設計趣旨 - ひとり親世帯の不安を解く建築 -

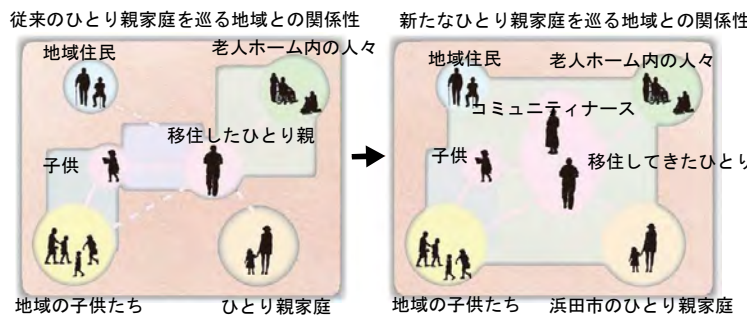
ひとり親家庭が抱える様々な不安が負担となり、近年ひとり親の相談施設の相談件数が増加している。浜田市はひとり親の移住を推進させることで高齢化社会による働き手の減少問題を解決しようと取り組んでいる。ひとり親の立場に寄り添い、ひとり親と子ども、さらには地域との繋がりを強く、ひとり親世帯の移住がより活発になるような建築、街づくりを提案する。



03 提案 - ひとり親の生き方に沿った新しい街開きのカタチ -

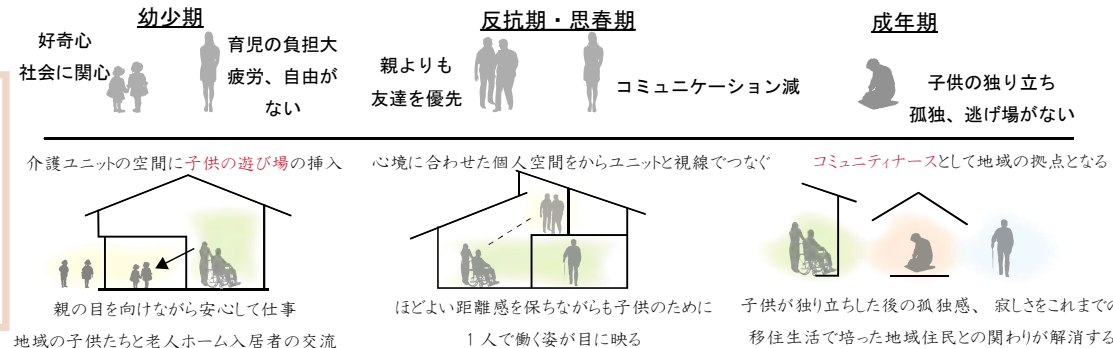
介護付き有料老人ホーム＋移住してきたひとり親世帯の住居の複合施設

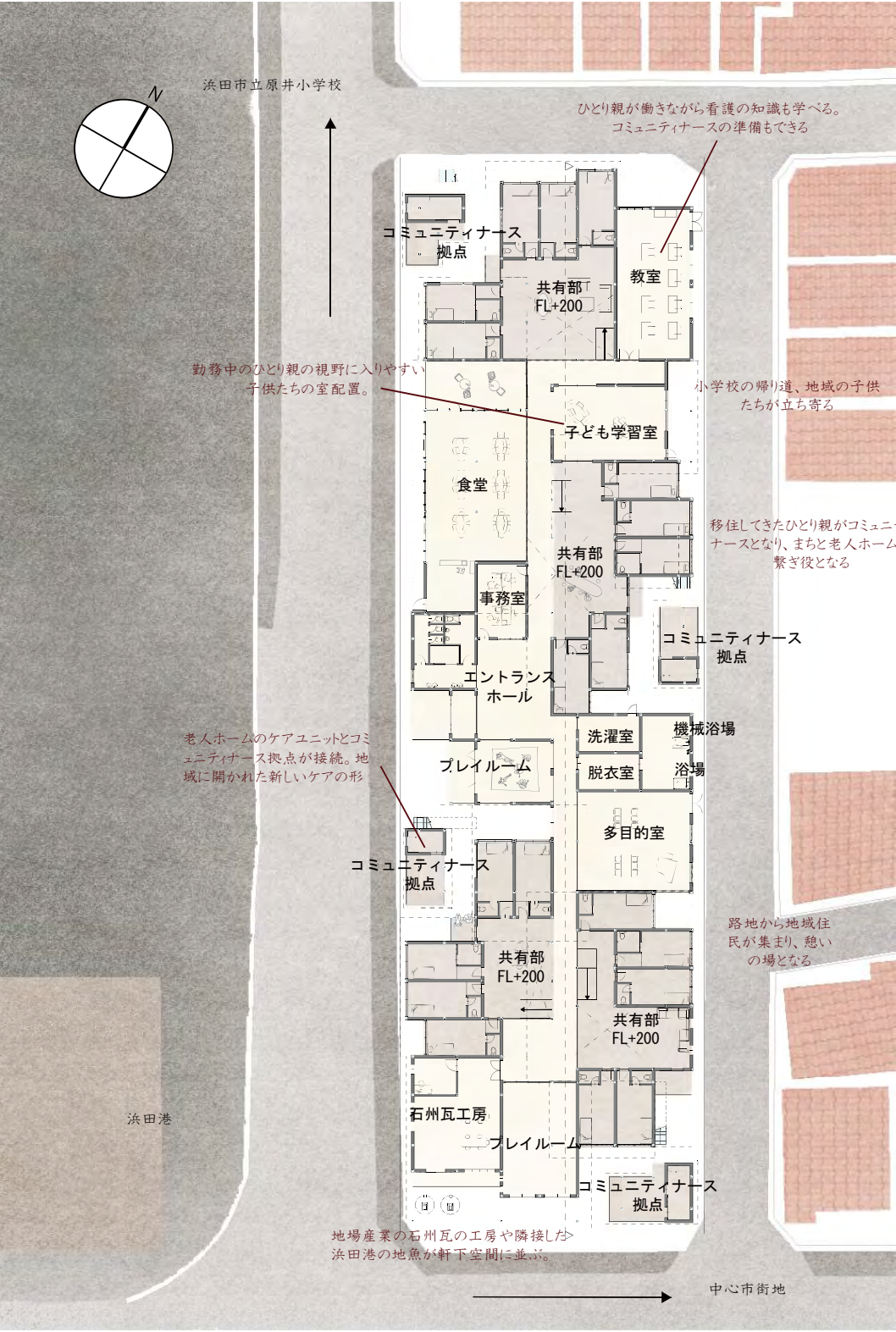
ひとり親の移住への不安が解消されることから、更に移住してくるひとり親世帯が増加し、移住と労働が循環する。高齢社会に必要な介護人口の増加にも貢献。ひとり親世帯の移住によってまち全体が高齢化社会に対応した仕組みが構築される。



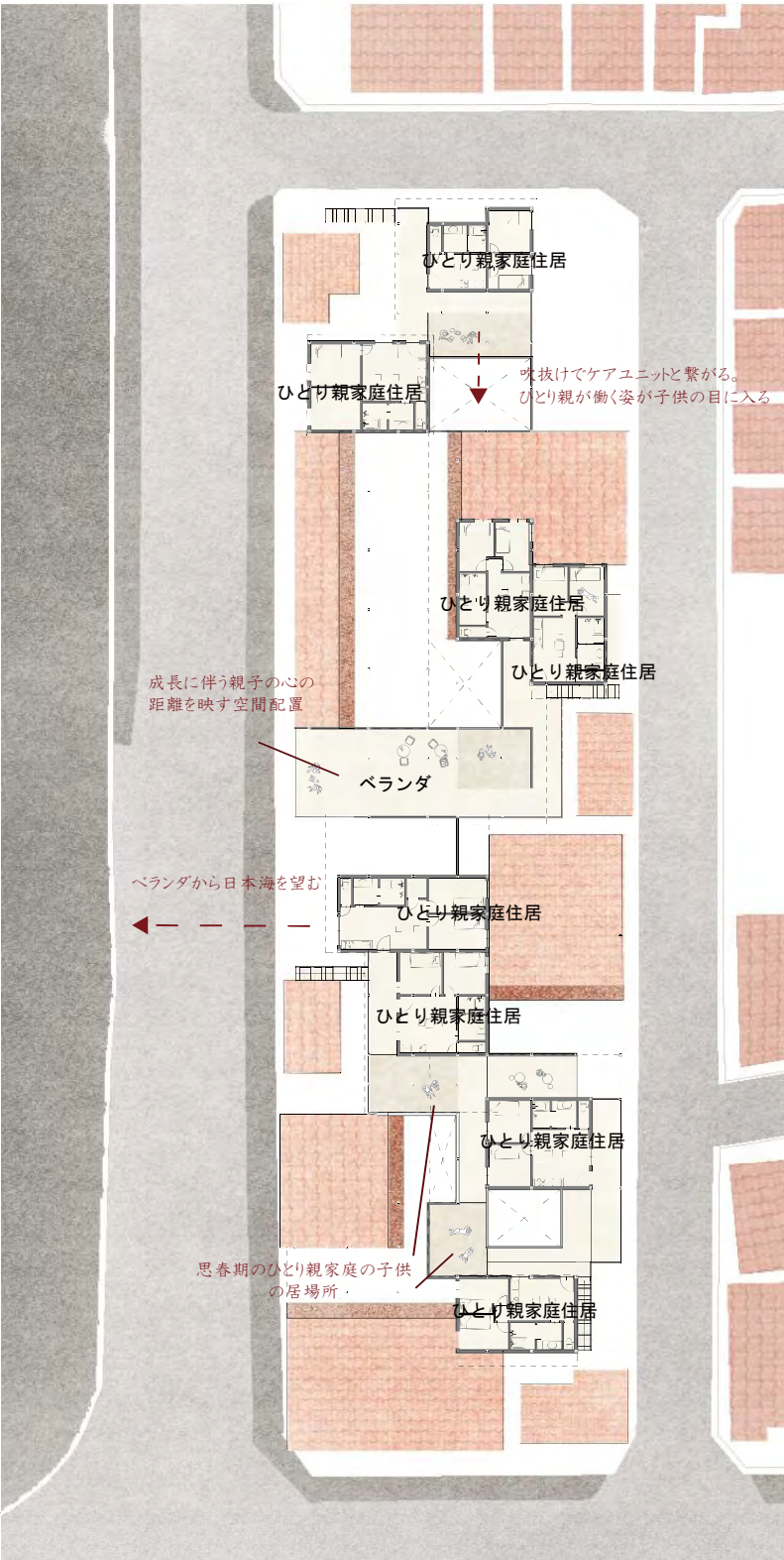
職住一体の生活
地域住民とのかかわり
コミュニティナースとしての老後の役割

子供の成長とひとり親の不安を解消する空間構成

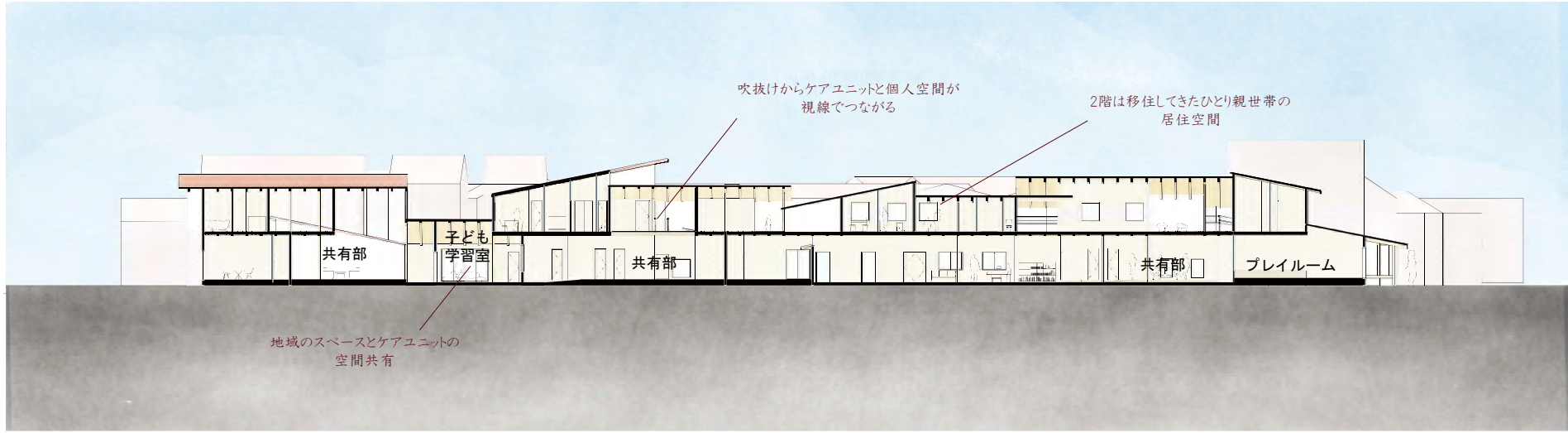




配置図兼 1 階平面図 S=1:350



2 階平面図 S=1:350



断面図 S=1:300



コミュニティナースとなったひとり親が老人ホームと地域住民のパイプ役となり、地域のひとり親の相談空間としても機能する。



老人ホームのケアユニットと共用空間である食堂、子供の空間である学習室が隣接し、コミュニティの交流が自然発生的に起こる。



地場産業で石州瓦の工房が南端にあり、地域住民の憩いの場となる。